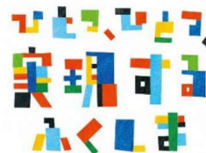


令和3年度 ふくしま学力調査結果【概要版】

令和3年11月18日
福島県教育委員会

1 ふくしま学力調査について



1 調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 調査実施日

令和3年4月21日（水）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための学級閉鎖等により調査実施日に実施が困難な学校に限り、調査実施日を令和3年4月22日（木）から5月14日（金）までの任意の日に変更して実施した。

3 参加学校数・参加人数

(1) 小学校 417校

※ 義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

(2) 中学校 221校

※ 義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

(3) 児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を1つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年
13,629	14,111	14,156	14,326	14,289

4 調査事項

(1) 教科に関する調査

① 小学校第4学年～第6学年 国語、算数

② 中学校第1学年・第2学年 国語、数学

(2) 質問紙調査

○ 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

5 結果の活用について

(1) 児童生徒の学習改善に活用する

各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

(2) 各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の学力のレベルや学力の伸びの状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、2学期以降の授業改善につなげていく。

2 調査結果の概要

1 教科に関する調査の結果から

【国語】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学生は、上位層の割合が平成31年度調査より多い。一方、中学生は下位層の割合が平成31年度より多い。(→p. 5)
- 同じ学年集団を経年比較すると、中学校1年生は、「学力のレベル」の最頻値が平成31年度の小学校5年生のときより上がっており、学力の伸びが見られる。(→p. 6)

【算数・数学】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学校6年生は「学力のレベル」の最頻値が上がっている。小学校5年生以上においては最上位レベル、最下位レベルともに割合が多い。(→p. 7)
- 同じ学年集団を経年比較すると、全ての学年で学力の伸びが見られたものの、上位層から中位層までの割合が減っており、下位層の割合が増えている。特に下位層の割合の増え方は、学年が上がるにつれて顕著である。(→p. 8)

2 児童生徒質問紙調査と学力の関係から

- 授業で学習の見通しをもつことや、話し合い活動で自分の考えをもつこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 9～10)
- 勉強する理由を「勉強することが楽しい、好きだから」と回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 11)
- 学習の準備を整え、授業に臨むことができていると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 12)
- 教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 12)
- 授業の予習や復習に取り組むと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 13)
- 読書の冊数が多いほど、国語の学力が高い傾向にある。(→p. 14)
- テレビゲームの時間が長くなるほど、学力が低い傾向にある。(→p. 14～15)

3 調査結果の総括

【国語】

どの学年も「学力のレベル」の下位層の割合より上位層の割合の方が多く、国語を比較的得意としている児童生徒が多い。しかし、学年が上がるにつれて「学力のレベル」が最上位の児童生徒の割合が大幅に少なくなる。児童生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう、各学年の学習指導を孤立させず、系統化した効果的な指導がなされることが求められる。

【算数・数学】

平成31年度と比較して、各学年とも最下位の「学力のレベル」に属する子どもの割合が増えており、低学年の学習内容の定着に大きな差が生じていることが分かる。低学年でのつまずきをそのままにしないことが重要であり、既習事項と関連付けた指導を意図的に行うことが必要である。一方、上位層の児童生徒は、学年が上がってもその割合の減少が少ないため、知的好奇心を刺激する発問の工夫等、上位層の児童生徒をさらに伸ばす手立てを講じるなど、個別最適な学びの実現が重要である。

【質問紙】

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、学習意欲や自己肯定感の醸成及び家庭学習の充実等が学力向上に与える影響が大きいことから、引き続き、「ふくしまの『授業スタンダード』」や「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基に、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

4 教科に関する調査の結果

(1) 福島県全体の平均正答率 (%)

	小学校 4 年	小学校 5 年	小学校 6 年	中学校 1 年	中学校 2 年
国語	55.3	57.3	58.9	58.3	66.1
算数・数学	68.7	58.4	58.6	59.1	56.2

(2) 福島県全体のカテゴリー別正答率 (%)

【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	言葉の特徴や 使い方	我が国の 言語文化	情報の扱い方、 我が国の 文化	話すこと・ 書くこと	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式	
小学校 4 年	68.0	64.4	29.1	38.4	66.9	33.3	—	58.8	54.9	14.5	
小学校 5 年	60.0	62.5	40.4	58.6	60.6	53.0	—	56.9	59.7	34.0	
小学校 6 年	63.4	73.3	44.6	53.5	65.2	50.8	—	60.4	57.7	42.2	
中学校 1 年	61.2	51.5	50.1	62.1	58.5	58.1	—	54.8	66.3	46.5	
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	話すこと・ 書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に 関する事項	国語への関心・ 意欲・態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
中学校 2 年	67.1	57.4	70.5	—	78.0	54.2	57.4	69.9	67.4	64.3	54.2

【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	数と計算	図形	測定(小4) 変化と関係 (小5・中2)	データの活用	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式	
小学校 4 年	72.2	60.8	71.5	66.5	71.3	51.6	—	64.7	75.7	18.9	
小学校 5 年	60.7	57.3	58.3	54.6	62.1	49.0	—	57.8	61.9	11.7	
小学校 6 年	61.0	61.6	60.1	50.0	59.7	52.5	—	60.4	60.2	5.0	
中学校 1 年	64.1	51.1	56.9	62.2	61.3	37.9	—	62.2	57.2	38.0	
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率			
	数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な技能	数量や図形などにつ いての知識・理解	選択式	短答式	記述式
中学校 2 年	56.8	50.9	56.0	60.9	—	51.9	56.0	58.4	57.0	55.7	52.0

(3) 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

各学年ごとのレベルの範囲 (白が当該学年のレベルの範囲です)

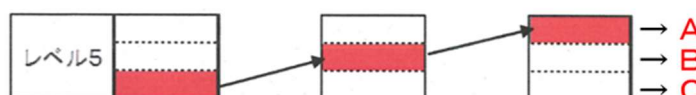
レベル	各学年ごとのレベルの範囲						レベル	レベル(3分割)	数値
	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
レベル12							レベル12	12-A	36
								12-B	35
								12-C	34
レベル11							レベル11	11-A	33
								11-B	32
								11-C	31
レベル10							レベル10	10-A	30
								10-B	29
								10-C	28
レベル9							レベル9	9-A	27
								9-B	26
								9-C	25
レベル8							レベル8	8-A	24
								8-B	23
								8-C	22
レベル7							レベル7	7-A	21
								7-B	20
								7-C	19
レベル6							レベル6	6-A	18
								6-B	17
								6-C	16
レベル5							レベル5	5-A	15
								5-B	14
								5-C	13
レベル4							レベル4	4-A	12
								4-B	11
								4-C	10
レベル3							レベル3	3-A	9
								3-B	8
								3-C	7
レベル2							レベル2	2-A	6
								2-B	5
								2-C	4
レベル1							レベル1	1-A	3
								1-B	2
								1-C	1

1 学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」は12段階あるが、測定は各学年7レベルの間で行う。

※ 福島県で中学3年生は実施しない。

さらに、1つの「学力のレベル」は3分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル5でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



2 学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化(例: 1-Cは“1”、12-Aは“36”)し、前回調査との差を計算する。

3 「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル(3分割)」を数値化した数値が、前年度から1以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。ただし、令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止による一斉臨時休業の影響を考慮して中止したため、今年度は一昨年度から数値が2以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

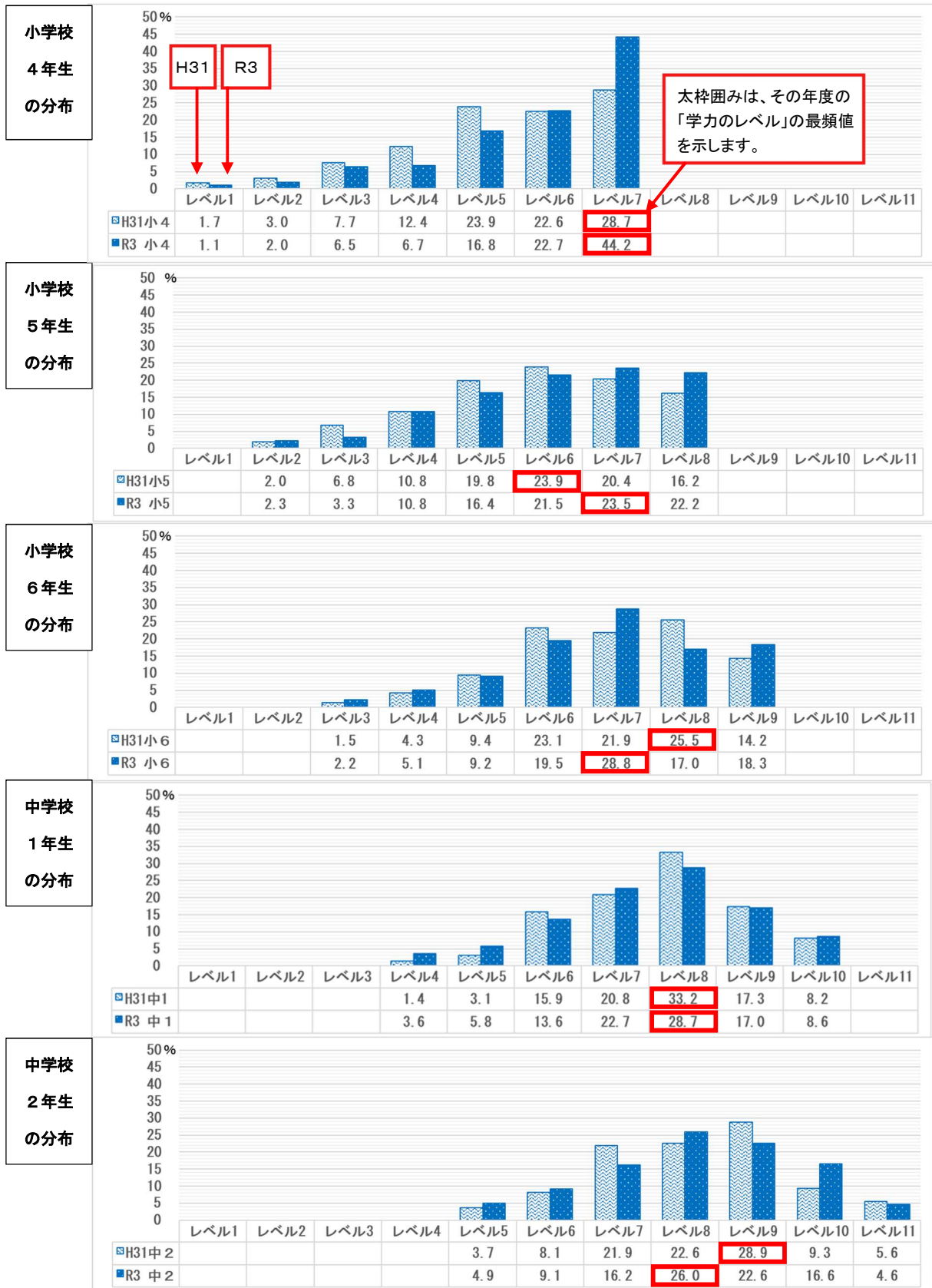
4 平成31年度(令和元年度)調査から学力が伸びた児童生徒の割合(県全体)

	小学校6年	中学校1年	中学校2年
国語	83.5%	87.6%	76.3%
算数・数学	73.5%	76.5%	70.8%

※ 前回は平成31年度(令和元年度)調査のため、今年度の小学校4年生及び小学校5年生の児童の学力の伸びが見られるのは令和4年度調査実施後となる。

(4) 福島県の「学力のレベル」の分布 ① 国語

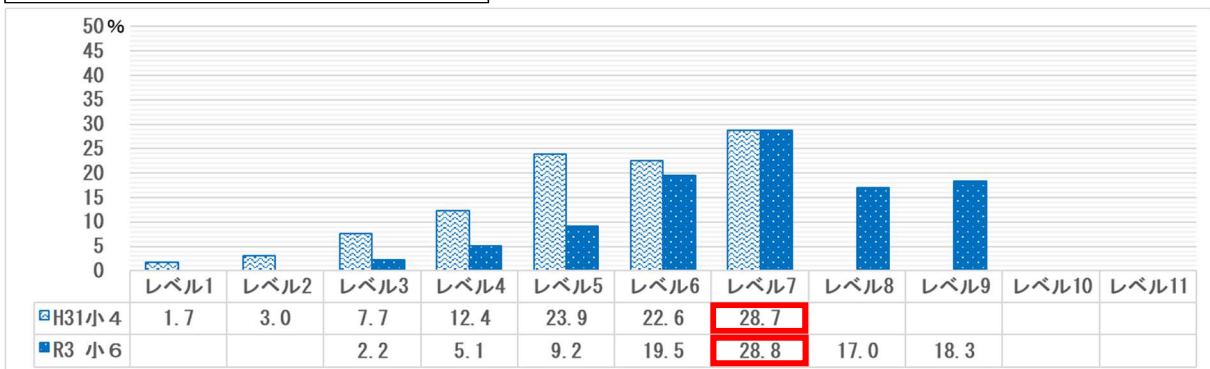
【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】



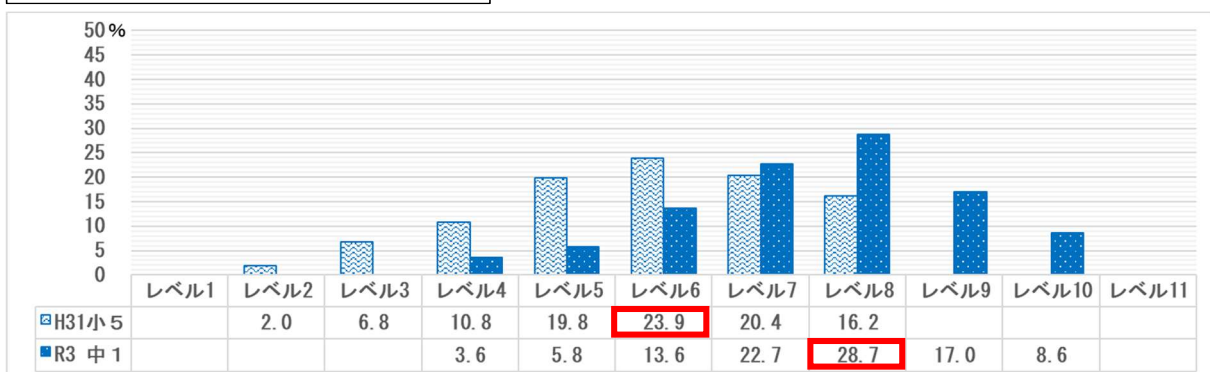
※ 各学力レベルに属する児童生徒の分布割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

【同じ学年集団の経年比較（国語）】

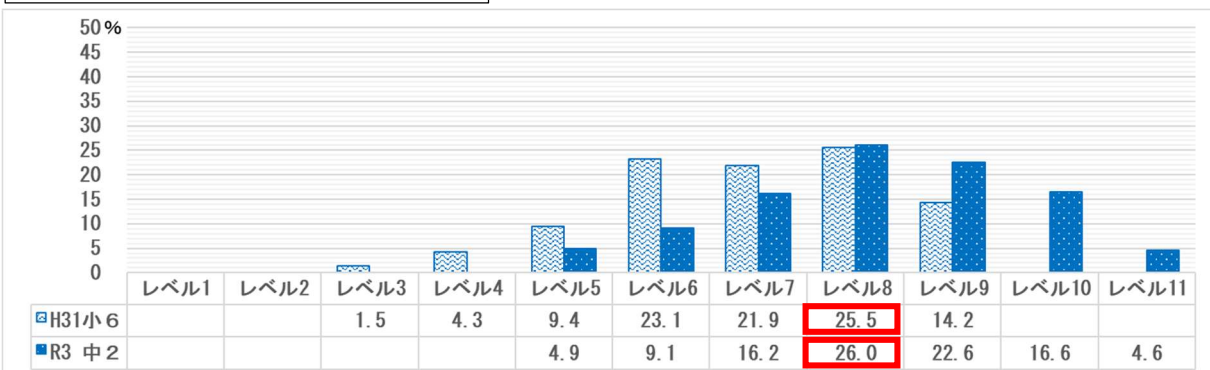
H31小学校4年生 → R3小学校6年生



H31小学校5年生 → R3中学校1年生



H31小学校6年生 → R3中学校2年生



【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】

○ 各学年の最上位の「学力のレベル」で比較すると、令和3年度の方がおおむね割合が多く、上位の学力水準が高くなっている。特に、小学校4年生で最上位のレベル7に位置する児童が、平成31年度調査に比べ15.5%pt多い。

● 「学力のレベル」の最頻値が小学校5年生でレベル6からレベル7に1段階上がっている一方、小学校6年生はレベル8からレベル7へ、中学校2年生はレベル9からレベル8へそれぞれ1段階下がっている。

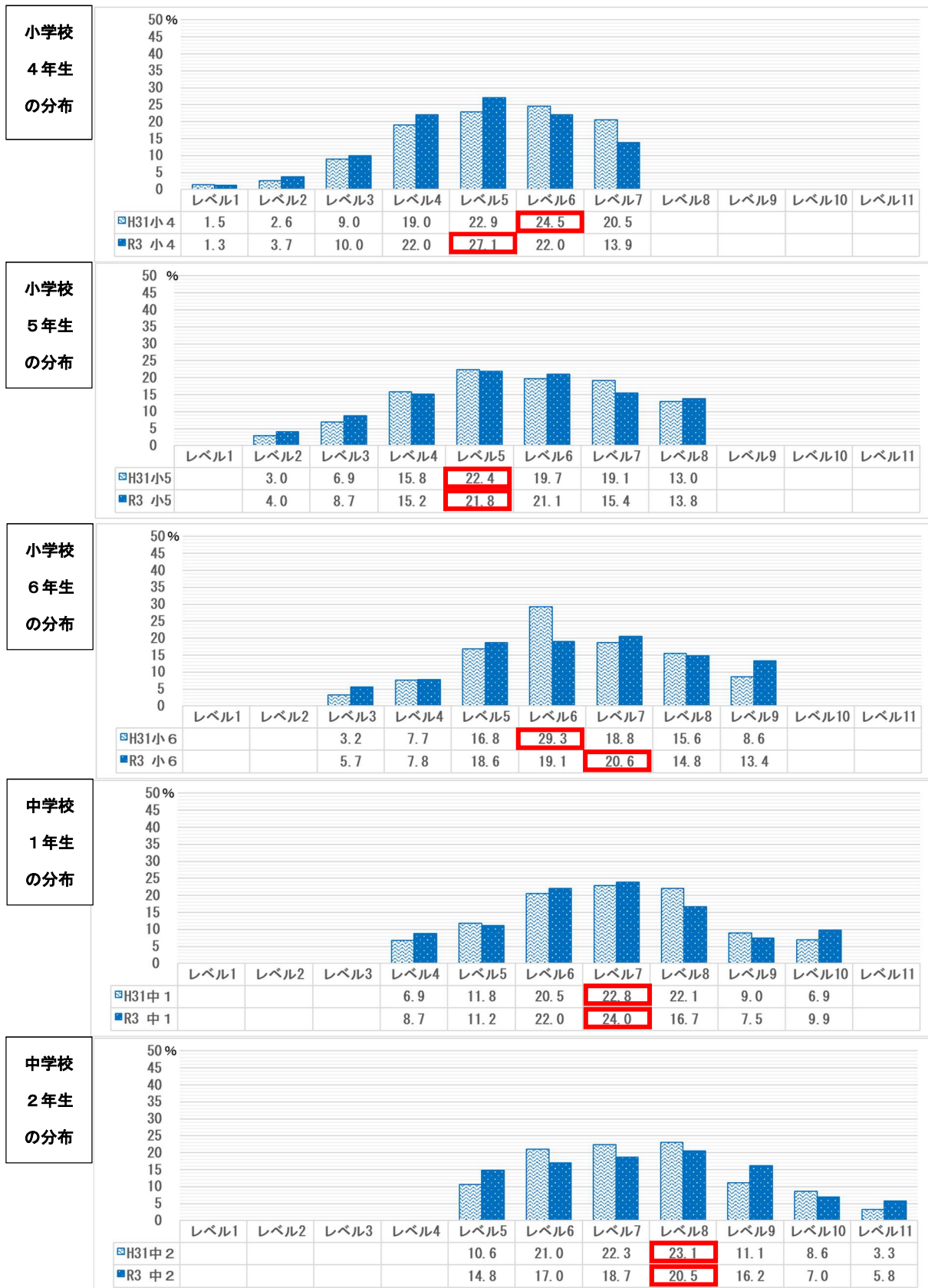
【同じ学年集団の経年比較（国語）】

○ 令和3年度の中学校1年生は、平成31年度の小学校5年生の時点から「学力のレベル」の最頻値が2段階上がっている。令和3年度の小学校6年生と中学校2年生は、最頻値が平成31年度の時点と同じレベルに留まっているが、最上位のレベルを見ると、難易度が上がっている中でも小学校6年生で18.3%、中学校2年生で4.6%の児童生徒がいる。

● どの学年も、学年が上がるにつれて最上位のレベルの割合がおおよそ10%pt減っている。

(4) 福島県の「学力のレベル」の分布 ② 算数・数学

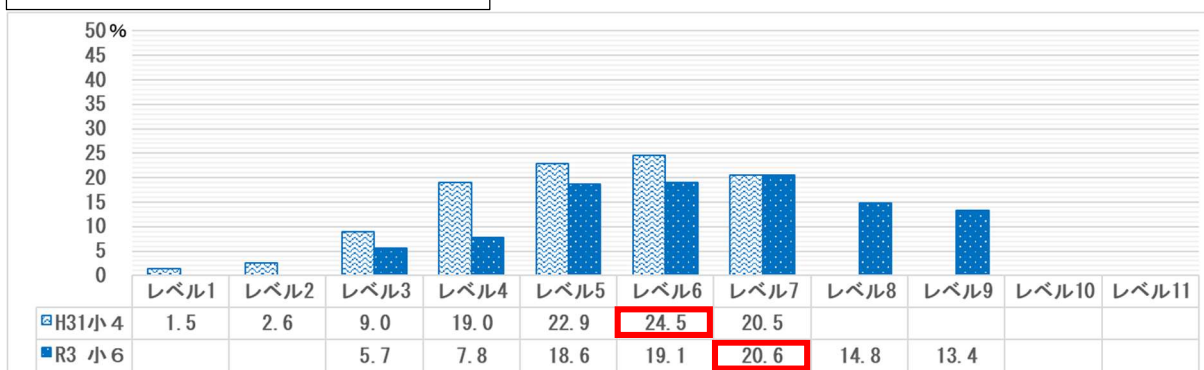
【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】



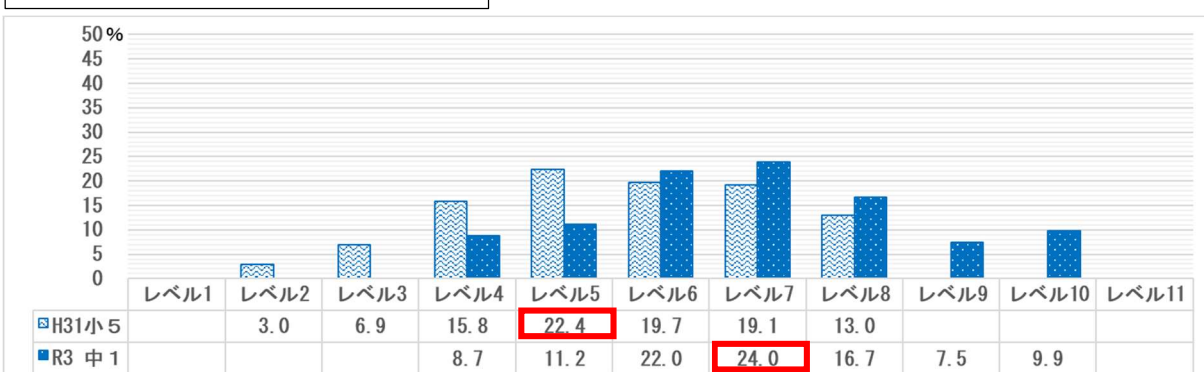
※ 各学力レベルに属する児童生徒の分布割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

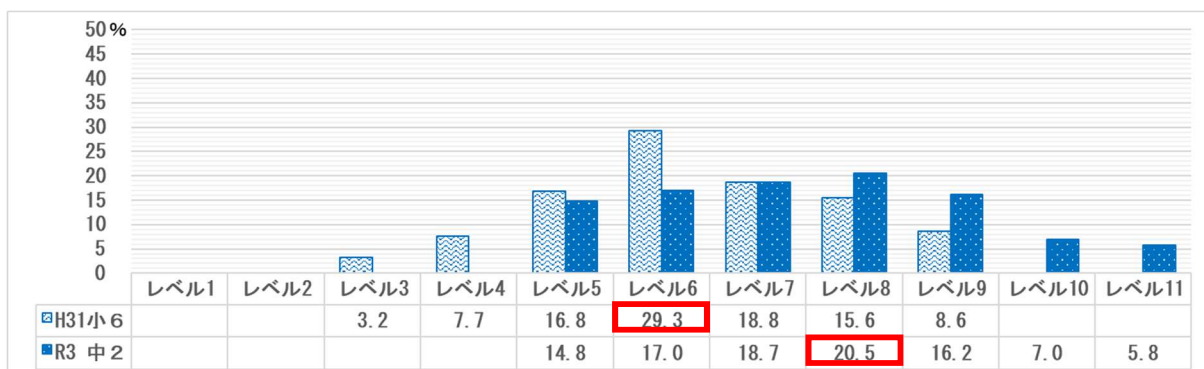
H31小学校4年生 → R3小学校6年生



H31小学校5年生 → R3中学校1年生



H31小学校6年生 → R3中学校2年生



【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】

- 令和3年度の小学校6年生の分布を見ると、平成31年度に比べ「学力のレベル」の最頻値が1段階上がり、高いレベルの分布が増加している。最上位のレベル9に位置する児童は、平成31年度より4.8%pt多い。また、令和3年度の小学校5年生と6年生及び中学校1年生と2年生の最上位のレベルに位置する児童生徒の割合は、平成31年度の同学年に比べて多い。
- 令和3年度の小学校4年生の分布を見ると、平成31年度に比べ1段階下のレベルに最頻値があり、最上位のレベル7に位置する児童が、平成31年度より6.6%pt少ない。また、令和3年度の小学校5年生と6年生及び中学校1年生と2年生の最下位のレベルに位置する児童生徒の割合は、平成31年度の同学年に比べて多い。

【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

- 令和3年度は、いずれの学年においても、学力のレベルの最頻値が上がっており、着実に学力を伸ばしている。
- どの学年も、学年が上がるにつれて最上位のレベルの割合が減っており、最下位のレベルの割合が増えている。令和3年度の中学校2年生は、最下位のレベルに位置する生徒の割合が11.6%pt増えている。

5 児童生徒質問紙調査結果と学力の傾向

(1) 授業に関すること

- 学習の見通しをもつことや、話し合い活動で自分の考えをもつこと、学習内容のつながりを明確にすることと学力の高さに関係が見られた。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与することが期待できる。

- ◎ 授業の始めに学習活動の見通しをもたせることで、主体的な学びを促すとともに、振り返りの場面における視点が明確になる。
- ◎ 話し合い活動を取り入れる際には、児童生徒が自分の立場を明確にし、他の児童生徒の意見と比較したり、自分の考えを吟味したりすることができるように働きかける。また、話し合い活動を行ってから、自分の考えをもう一度整理し、表現する時間を確保することも大切である。
- ◎ 単元全体を見通して指導計画や評価計画を立て、学習内容のつながりや既習事項との関連を明確にする。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

- ・ 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、焦点化された学習課題を設定しましょう。
- ・ 自分の考えを素直に表現し、相手の考えを共感的に聞くことは、思考の広がりや深まりにつながります。
- ・ 導入において既習事項の振り返りから「問い」や「思い・願い」を引き出したり、計画や見通しをもたせる場面において学習課題と既習事項を関連付けたりする学習活動を設定し、終末において振り返りましょう。

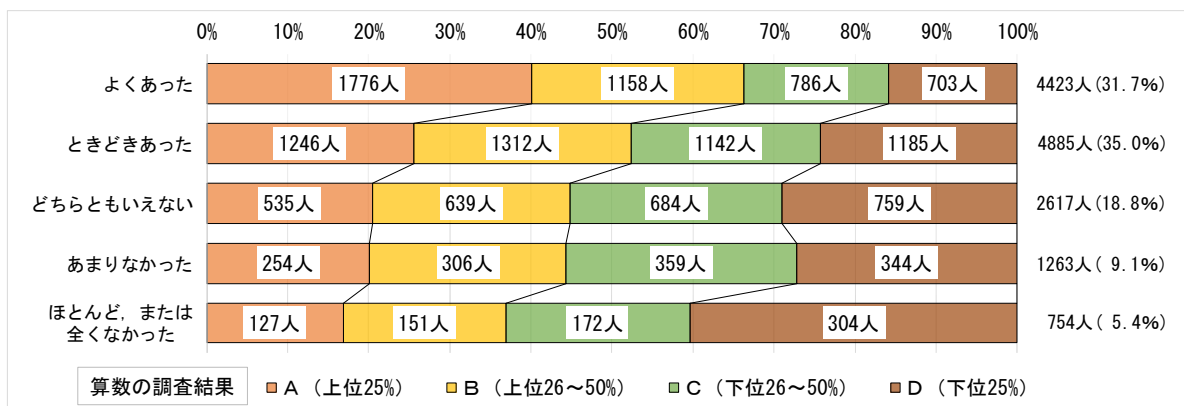
<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

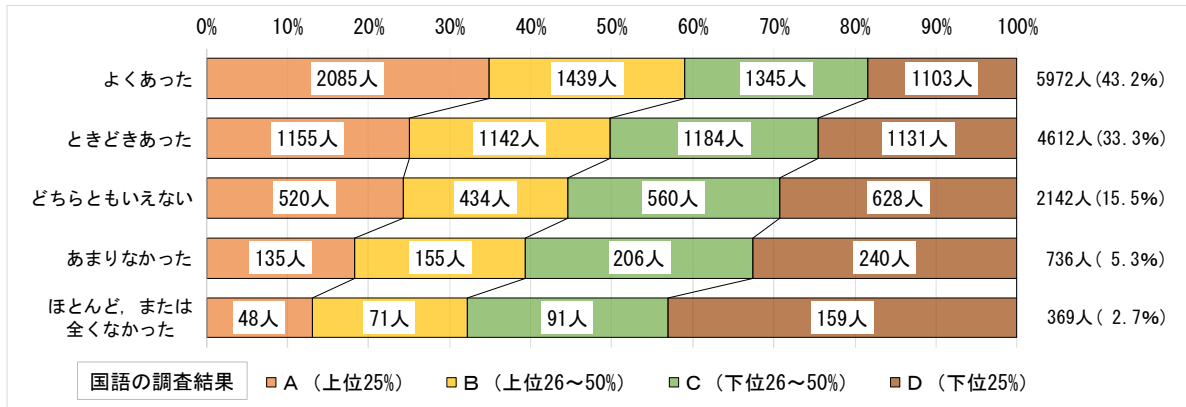
小学校6年生 算数

※ クロス集計の結果は、代表的な学年・教科を取り上げています。他の学年・教科のクロス集計結果は、後日福島県教育委員会のホームページに掲載します。



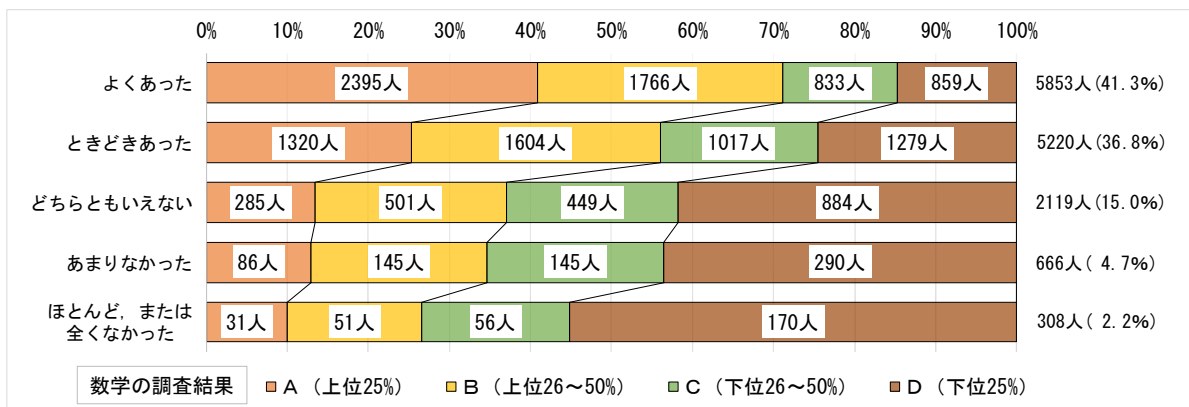
縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったことがありましたか』
 横軸：『国語の調査結果』

小学校5年生 国語



縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』
 横軸：『算数・数学の調査結果』

中学校2年生 数学



(2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習意欲（特に「勉強することが楽しい、好きだから」）が高い児童生徒は、学力が高い傾向が見られた。
- 学習の準備を整えることや、他の児童生徒及び教師から認められること及び自己肯定感の高さも、学力との関係が強い。

- ◎ 授業で「勉強することが楽しい、好きだ」という考えを児童生徒にもたせるためには、児童生徒が興味・関心を高めることのできる教材との出会いを工夫したり、児童生徒が自分の成長や変容に気付くことのできる振り返りの場を設定したりすることが考えられる。
- ◎ 授業に臨む心構えを確実に共有し、授業の前に必要な学習用具を整えておくなどによりよい学習習慣や学習に対する前向きな姿勢を育てることが大切である。
- ◎ 学級経営において、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気醸成することにより、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学習意欲や学力の向上につながると考えられる。

【ふくしまの「授業スタンダード」より】

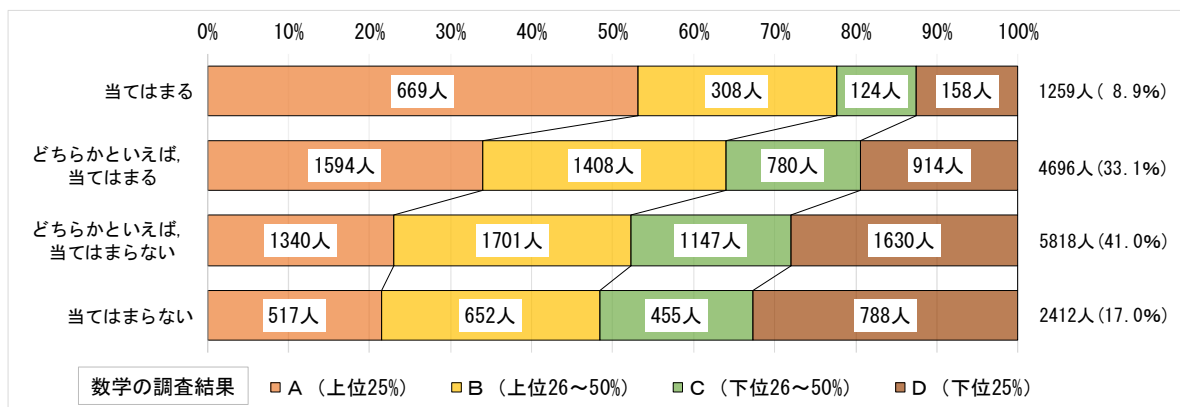
- ・ 学習規律について、発達の段階を踏まえて共通実践をすることを大切にしましょう。
- ・ 普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか』
《勉強することが楽しい・好きだから》

横軸：『算数・数学の調査結果』

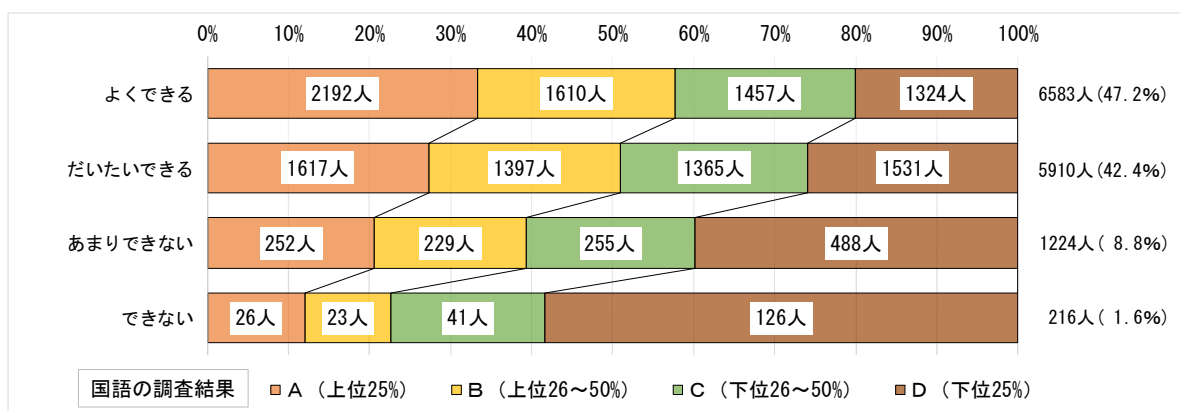
中学校2年生 数学



縦軸：質問『学習の準備を整え、授業に臨むことができますか』

横軸：『国語の調査結果』

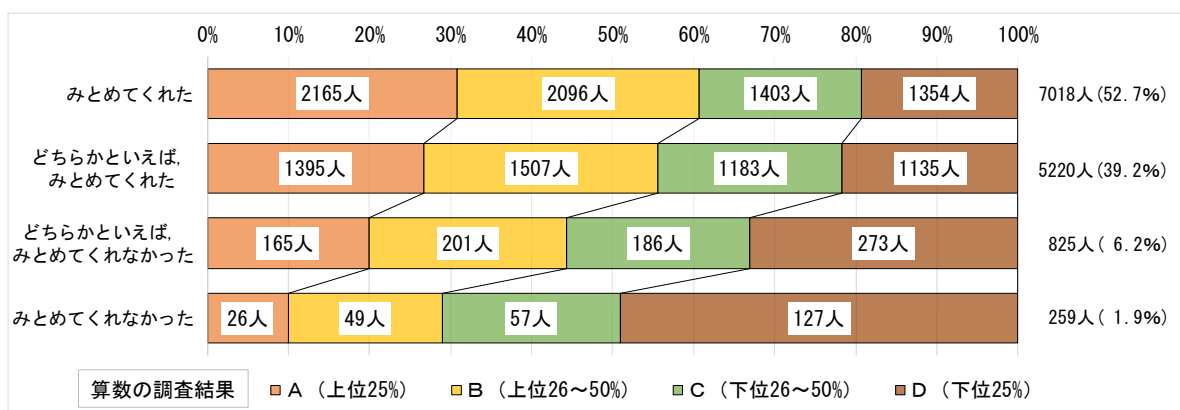
小学校6年生 国語



縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

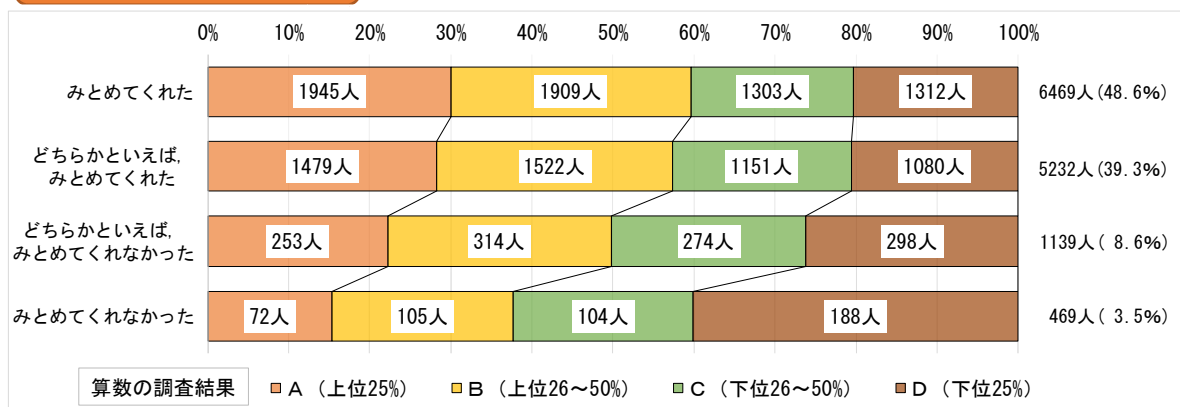
小学校4年生 算数



縦軸：質問『学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

小学校4年生 算数



(3) 家庭での生活に関すること

- 授業の予習や復習に取り組む児童生徒の方が、学力が高い傾向が見られた。
- 教科や学年により差はあるが、読書の冊数が多いほど学力が高い傾向が見られた。
- テレビゲームの時間が長いほど、学力の高い児童生徒の割合が低くなる傾向が見られた。

- ◎ 家庭学習の内容や方法等について家庭と共通理解を図ることが大切である。
- ◎ 家族で一緒に読書に親しむ機会を増やすことや、読書環境の整備の充実を図ることなど、読書量を増やす取組をすることで、学力の向上に寄与することが期待できる。
- ◎ 同じ学年集団で経年比較すると、ゲームをする時間が長くなっている傾向がある。「学習を始める時刻」や「就寝時刻」、「家庭での役割（手伝い）」等の約束ごとを、保護者と児童生徒が話し合いながら決められるように働きかけていくことが大切である。

【ふくしまの「家庭学習スタンダード」より】

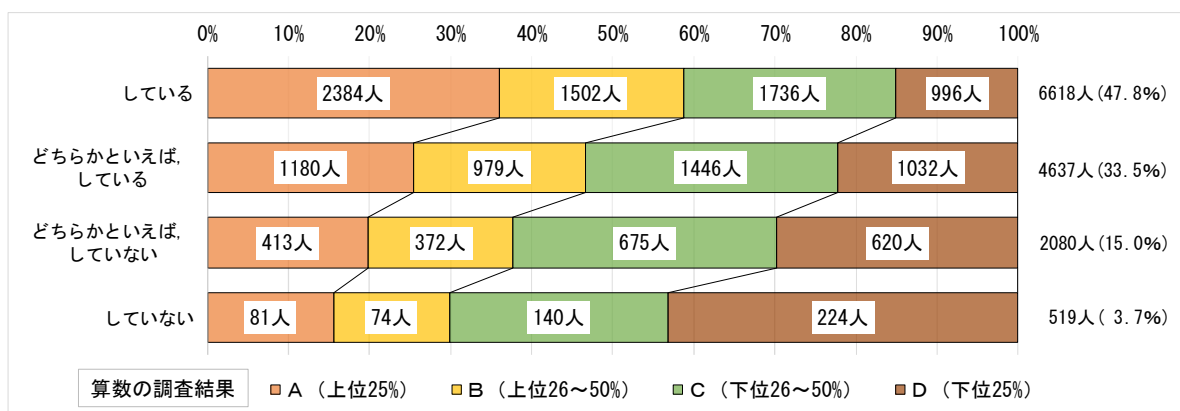
- ・ 学習内容に応じて、宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めたり、授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介したりするなどの取組で、授業と家庭学習をつなげましょう。
- ・ 「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の3つの視点で家庭・地域と協力・連携体制を築いていきましょう。また、子どもや保護者の家庭学習に関する悩みや要望を把握し、相談する機会を設けていきましょう。

<児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『学校の授業の予習や復習をしていますか』

横軸：『算数・数学の調査結果』

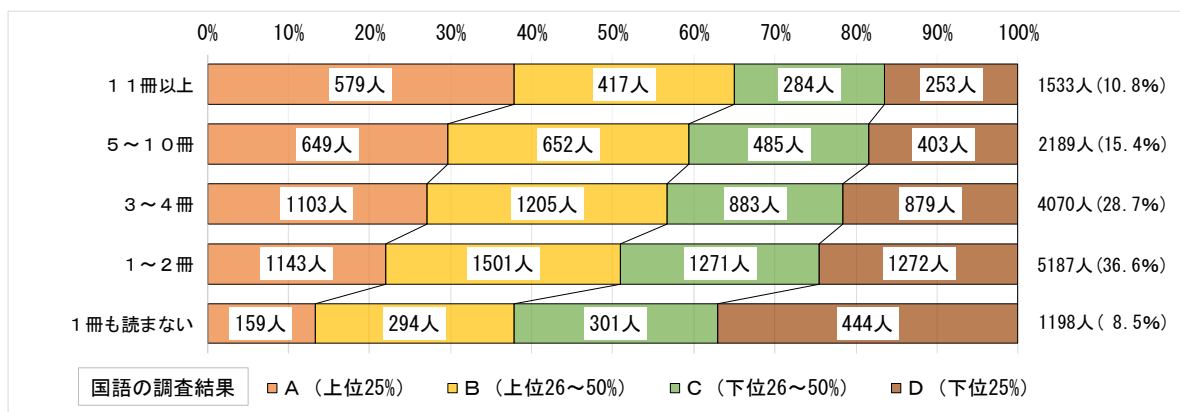
小学校5年生 算数



縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『国語の調査結果』

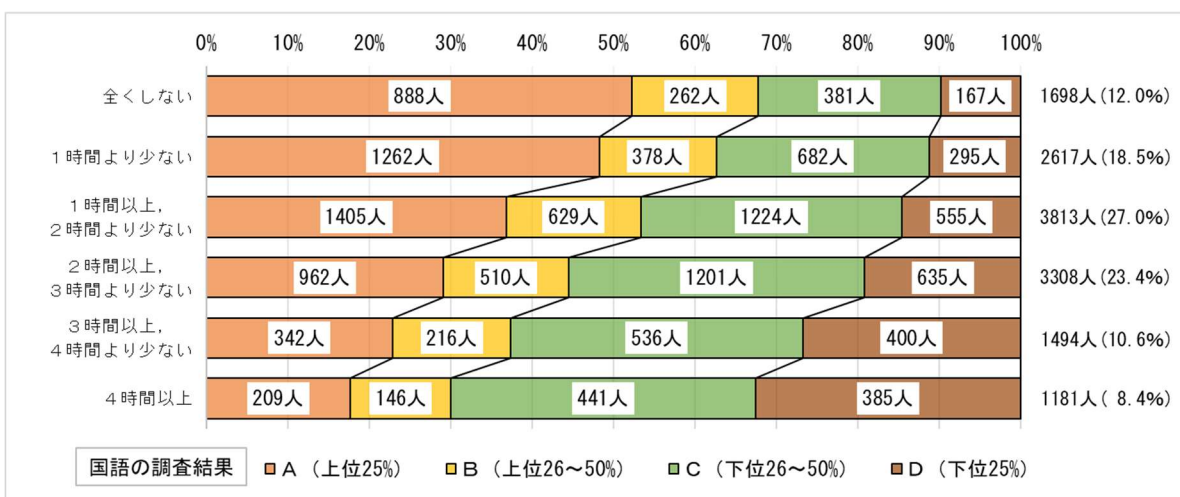
中学校1年生 国語



縦軸：質問『普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも入ります）をしますか』

横軸：『国語の調査結果』

中学校2年生 国語



<令和3年度と平成31年度における児童生徒質問紙調査結果の経年比較から>

『普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも入ります）をしますか』

